国臨協関信

関信支部ニュース第236号　令和7年1月

●事務局／〒162-8655東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院
中央検査部門内

●発行者／吉田茂久
●編集委員／中村良幸　齋藤ひとみ　渡辺順也　荒木涼
●印刷所／一喜堂印刷株式会社☎0268-35-2624

支部HPアドレス
https://www.kanshinshibu.org/index.html

支部NEWSアドレス
https://www.kanshinshibu.org/member/news.html

新年の御挨拶

国立病院臨床検査技師協会関東信越支部
支部長　**吉田 茂久**

新年おめでとうございます。

国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、旧年中は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございました。

新たな年が皆様にとって希望にあふれる一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新たな年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

2025年は、「2025年問題」といわれ、いわゆる「団塊の世代」800万人全員が75歳以上の後期高齢者となり、国民の5人に1人が75歳以上（全人口の18%）を迎えることとなります。

日本国の借金（普通国債残高）は1,000兆円を超えており、主要先進国の中で最も高い水準にあります。2040年には65歳以上の人口が全人口の約35%となると推計され、社会保障費の負担が重くなり、労働者不足から経済が縮小して税収が落ち込み、受給する高齢者数・受給額と現役世代が負担する社会保険料とのバランスが崩れて、実質的に社会保障制度が破綻するのではと懸念されています。「2025年問題」はさまざまな分野に大きな影響を及ぼす前兆（きざし）で、とりわけ医療・介護現場では避けては通れない課題です。

我々臨床検査技師が、この課題を克服するためにできる第一歩としては、医療の現場で医師や看護師からのタスク・シフト/シェアに積極的に参画し、検査室以外の医療現場で活躍の場を見出していくことが重要だと思われます。本年4月からタスク・シフト/シェアを推進するために臨床検査技師等に関する法律施行令並びに施行規則により追加された10行為を含む改正された臨床検査技師養成カリキュラムを履修した学生が臨床検査技師として輩出されてきます。同じ職種の中で現行制度の下で実施可能な業務範囲において実施可能な業務が個人によって差が生じてしまうことは避けなければなりません。修了書を手にしていない会員の皆様方におかれましては、まずは「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」を受講し、修了証書を手にすることを今年度の目標にして取り組んでいただければ幸いです。また、修了書を手にした会員の皆様方におかれましても、修了書を取得したことで満足せず、施設の中で「何をしなければいけないのか」「何かできることはないか」を考え、「今できること・変えられることからやってみよう！」を見つけ出して施設の中で存在感を出していただければと思います。

2025年を迎えて我々一人一人の行動が、「未来の臨床検査技師のあり方」に繋げることができる一年になれば幸いです。

最後になりますが、本年も地区会、国臨協本部、技師長協議会、関東信越グループ専門職と協力し活動に努めて参ります。さらなるご支援、ご鞭撻を賜りますようにお願い申し上げます。新しい年が皆さま方にとって健康で素晴らしい年となることを祈念してご挨拶とさせていただきます。

NHO関東信越グループ　医療担当
臨床検査専門職　**熊谷 豊**

謹んで新春のお祝いを申し上げます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

前島前臨床検査専門職から職務を引継ぎ9か月、皆様方より多大なるご支援とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。また、日頃より単身赴任や遠距離通勤を余儀なくされている皆様に対しましては、改めて心より感謝申し上げます。

国臨協関信支部の活動におきましても、対面での開催を見合わせていた支部学会や各地区会・研修会も集合型に戻り、コロナ禍以前のような活発な活動ができるようになってまいりました。皆様におかれましても、知識の習得にとどまらず、会員間の親睦を深めることができるまたとない機会になりますので、奮ってご参加いただければと思います。

NHOにおいて5年ごとに策定される中期目標ですが、本年度が初年度となる第5期の中期計画期間において、診療放射線技師、臨床検査技師のそれぞれにおいて、業務拡大にかかる行為に必要な知識及び技能を習得した職員の割合を、毎年度、前年度より増加させることとあります。ぜひタスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会を受講していただければと思います。

我々臨床検査技師を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。著しい技術革新により、更なる自動化、システム化が従来からの検査業務に導入されることにより「新たな検査室」の構築に向けた取り組みが求められています。タスク・シフト/シェアを足掛かりに、検査室の枠を超えて診療支援に取り組むことで「新たな場所」に臨床検査技師の「新たな価値」を作り出すために取り組んでいただきたいと思います。

本年が会員の皆様にとって素晴らしい年になることを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年を迎えて

茨城地区会会長　山田 晃子

新年おめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと存じます。茨城地区会を代表いたしまして、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年６月に開催された茨城地区会定期総会にて、令和６年度の新役員が承認されました。

新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行した後も、感染症の流行を危惧していましたが、無事に集合型で総会を開催することができました。

事業計画も予定通り実施することができており、文化活動として12月に笠間で陶芸体験（ろくろ）を行い、その後笠間稲荷神社近くの古民家レストランで地野菜中心のお料理をいただき、親睦を深める予定です（執筆時は11月）。

第52回国臨協関信支部学会も集合型で開催され、演者の方の中には直接対面での発表が初めての方も多く、良い緊張感の中で発表できたのではないかと感じました。

国臨協関信支部が、検査技師としての専門性を高めるとともに、人間的な成長を支援する交流の場になるよう、地区会として活動したいと思っています。

最後に、本年も関信支部の発展と会員皆様のご健勝と活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

栃木地区会会長　宮澤 寿幸

明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。栃木地区会を代表しまして新年のご挨拶を申し上げます。

昨年11月の栃木地区会定期総会（書面表決）にて会長を仰せつかりました。栃木地区会は２施設（栃木医療センター・宇都宮病院）25名の会員となっております。昨年は、２年連続、国臨協関信支部学会　地区会ポスターコーナーにて優秀賞を頂き、本年も継続受賞できるよう頑張りたいと考えております。また、前年においては、３回の研修会、2回の懇親会を開催し、Webと対面を含め、活発な活動をしてきました。本年は、レクリエーションや研修会も興味のある内容を集いながら、栃木地区会の団結力の向上と個々のコミュニケーションUPに貢献できるよう地区会を盛り上げていく所存であります。

最後に関信支部役員ならびに会員の皆様のご健康とご活躍をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。

群馬地区会会長　瀬下 明子

あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。群馬地区会を代表してご挨拶申し上げます。

群馬地区会は４施設52名の会員で構成されています。７月には文化活動としてサクランボ狩りとバーベキュー、11月には研修会と定期総会をいずれも集合型で開催しました。懇親会も開催され、多数の会員が交流を深めてとても仲良く団結力の強い地区会となりました。また第52回支部学会地区会コーナーにおきまして２年連続して最優秀賞を受賞し、さらに会員の皆様の投票で決まるベストポスター賞もいただくというＷ受賞の輝かしい成績をおさめる事もできました。この背景には、作成担当者のセンスの良さはもちろんですが、日々の業務は大変でも携わった一人一人が楽しんでいたエネルギーが込められたからではないかと思っています。勢いのある元気な地区会である証となっています。

さて、新しい年を迎えてもよほどでなければ何かが変わる事はないと思いますが、そもそも変えようと思わなければ変わらないのです。脳の仕組みは現状維持が標準なので人や組織を変えようとしても中々変わらないのはそのような理論だそうです。変わるには脳が基準としている環境や習慣を変えてみるのが良さそうです。望む目標にたどり着かないならば現状を俯瞰で見つめて、いつも通りという事を変えてみたり、違う習慣を取り入れてみるのも良いかもしれません。私も何かチャレンジしてみようと思います。私事ですが、３月を持ちまして定年を迎えますので４月以降の会長職は高崎総合医療センターの新技師長に引き継がれますが、任期中は精一杯務めさせていただきます。

最後に皆様のご健康とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

埼玉地区会会長　沼田 正男

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。関信支部会員の皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えのことと存じます。

昨年を振り返りますと新型コロナ感染症が５類へ移行して１年が過ぎ、徐々に新型コロナ感染症流行前の活気が戻ってきている印象です。当埼玉地区会も昨年５月に地区会交流会（BBQ大会）を開催し会員相互の交流を深めることができました。また、９月の埼玉地区会定期総会においても集合型で開催し、熊谷豊臨床検査専門職と齋藤広樹関信支部副支部長にご講演いただきました。地区会会員の方々においては臨床検査専門職や関信支部の話をなかなか聞く機会がないので、良い経験になったのではないかと思います。

学術面では南海トラフ地震が昨今騒がれており、９月の総会時に「災害対策セミナー」の研修会を予定しておりましたが、急遽中止になってしまいました。しかし、今後を見据えて今年９月の定期総会時の研修会に再度「災害対策セミナー」を開催したいと考えております。臨床検査技師の職域に関してはタスク・シフト／シェアによる業務拡大も徐々にではありますが、増えてきており今後一層臨床検査部門に求められるものと思われます。今年度も地区会交流会や研修会を開催し、会員相互の交流や学術面の向上に努め、会員に有益な地区会活動を目指していきます。

最後となりますが、本年も関信支部の発展と会員皆様のご多幸と益々のご活躍を祈念しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

千葉地区会会長　中谷 穏

新年あけましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、新たな目標に向かって働く意欲に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。千葉地区会を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

2024年７月に千葉地区会の会長という大役を仰せつかりました。地区会長を任せていただくことになり、責任感をひしひしと感じております。ここ数年で、学会活動もリモートからハイブリッド、そして徐々に現地開催が増えてきています。千葉地区会でも、昨年の総会・研修会は現地開催し、顔を合わせて話ができる場があり、自然と笑みも出ていたように感じました。本年も現地開催できるよう準備していきたいと思います。

新年の干支は、へびどしです。へびは脱皮しながら成長するため、生命や再生の象徴とされているそうです。会員の皆様一人ひとりが脱皮しながら成長し、新たな知識・技術を磨き上げ、臨床に貢献できる人材が一人でも多く生まれればよいなと考えております。次世代の人材育成のあり方も、今までにない斬新的な方法が必要とされているような気がしてなりません。我々の世代が育てられたやり方はもはや通用しない世の中になってきたように感じます。しかし、検査への品質確保や人材育成にあたっては、伝承しなければならないことも多々あるでしょう。良い考え方や方法などは次世代の方々に伝承していきたいと思っております。

末筆ながら、この関信支部ニュースをご拝読されている関信支部会員の皆様にとって良い年になりますよう祈願いたしましてご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

東京地区会会長　松本 善信

新年あけましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。さて、東京地区会では5年ぶりに集合型で開催されました第11回関信支部東京地区会定期総会により今年度の事業方針ならびに新役員の承認が得られました。東京地区会には、5施設124名の会員がおりますが、レクリエーションや研修会を通して少しでも会員相互の親睦が深められればと思っております。

昨年、何度も目にして印象に残った言葉が「心理的安全性」でした。皆様もご存じの通りGoogleの「プロジェクト・アリストテレス」の調査結果から導き出された効果的なチーム（職場）作りに必要な重要ポイントの1要素です。「心理的安全性」は、チーム（職場）において重要かつ必要ですが、クローズアップされている「心理的安全性」に対する誤ったイメージまたは思い込みをもっていないでしょうか？好きなことが言え、わがままが許され、自分らしくいられる、仕事に対して無責任でも平気。年齢や立場に関係なく発言ができるから無責任に発言しても大丈夫。

それを許容させないために効果的なチーム（職場）作りには、「心理的安全性」以外にも「信頼性」「構造と明瞭さ」「仕事の意味」「インパクト」が必要となっています。チームとは、最小単位で検査科の各部署、検査科、コメディカル、各病院（施設）。または、検査科の各部署、検査科、関信支部地区会、関信支部、国臨協。チームについては立場等によりいろいろと考え方はありますが、自分が所属しているチームに対して効果的なチーム作りに取り組んでみてはいかがでしょうか。もちろん、「心理的安全性」を理解したうえでお願いします。

最後になりますが、本年も関信支部の発展と会員皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

東京・山梨地区会会長　阪 旨子

あけましておめでとうございます。国臨協関信支部の会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。東京・山梨地区会を代表いたしましてご挨拶申し上げます。

東京・山梨地区会は5施設約150名の会員で構成されています。昨年はボウリング大会や懇親会を開催し親睦を深め、研修会ではヒューマンハピネス株式会社代表取締役の上谷実礼先生を講師に迎え「職場に心理的安全性を育てる勇気づけコミュニケーション」についてご講演いただきました。コミュニケーションを取ることが難しい時代になりましたが、声掛けの仕方を工夫し考え方を変えることで、より円滑なコミュニケーションを取ることができることを学びました。昨年の講演が素晴らしかったため、今年の研修会はどうしようかと頭を悩ませています。

今年は10月11日、12日に日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会が山梨県のアピオ甲府タワー館で開催されます。山梨は見るところも美味しいものも温泉もたくさんありますので、ぜひご参加、演題発表をお願いいたします。

最後になりますが、国臨協関信支部の発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

神奈川地区会会長　瀬戸 茂誉

謹んで新年のお慶びを申し上げます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと存じます。神奈川地区会を代表いたしまして新年のご挨拶を申し上げます。

神奈川地区会は5施設で構成され、会員数70名の会員で活動しています。昨年は年5回の理事会と2回の会報誌発行を行い、6月にはレクレーションで東京ドームにて野球観戦、9月には国臨協関信支部学会にて地区会コーナー展示をしました。残念ながら賞は頂けませんでしたが今年度は受賞目指して頑張りたいと思います。10月には総会、学術講演会を行いました。令和6年10月5日（土）に第43回神奈川地区定期総会が相模原病院で開催され、新執行部が承認され、新年度がスタートしております。令和6年度も昨年と同様に会員のニーズに沿って活動していきたいと考えております。

神奈川県には横浜、鎌倉、箱根、湘南などの沢山の魅力的なエリアがあります。レクレーションでは豊富で魅力的なエリアを活かして活動していきたいと思います。

最後になりますが、本年も関信支部の発展と会員皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新潟地区会会長　岩崎 聖二

新年あけましておめでとうございます。関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新潟地区会は上中下越に各1施設、合計3施設に会員数21名の少数精鋭で構成されています。2023年5月に新型コロナ感染症が第5類に移行してから、さっそく当地区でも交流会と定期総会を集合型で再開しています。昨年もほぼ定例化したボウリング大会を開催いたしました。会員相互の交流と情報交換の場として、とても良い機会と認識していますがコロナ感染の動向は見過ごせず、新潟地区の施設は要員数が少ないため、集合型の開催はやや不安でもあります。

昨年は試薬などの出荷制限がたびたび発生し、一喜一憂したと思います。今年はどうでしょう？今年の干支は「巳（蛇）」です。蛇は脱皮することから復活と再生を象徴するようで、昨年あまり成果が得られなかった人や体調に優れなかった人には再起の年になるよう願っています。そして蛇という生き物は前にしか進めません。何事にも前向きに取り組むことや新しい挑戦には良い年だと思います。

最後になりますが、新潟地区会を代表して、会員皆様のご発展とご活躍を祈念いたします。

長野地区会会長　内川 正弘

新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。長野地区会を代表し挨拶申し上げます。

他の地区会と同様、コロナ禍におきましては集合型イベントの自粛をしておりましたが、R5年以降ようやく集合型開催にこぎつけることができました。コロナ禍以前の賑わいに及ばないことへ、私自身の力不足を痛感していますが、お集まり頂く皆様には大変感謝しています。最近は病院単位の忘年会でも一般職員の集まりが悪く、主催者側の頭を悩ます光景が珍しくありません。「昔は良かった」と言うつもりはありません。人々が集い語らうメリットがこのまま忘れ去られるのか、個人の権利意識の高い者らの都合のみが擁護され、これを正当化する奇妙な義務感が助長され、前述のメリットを掲げる者が不利益を被る時代へ変遷したのか、コロナ禍を経て、人々の意識の変化を感じております。

支部活動や地区会活動は、転勤が前提の我々にとって、互いを知り切磋琢磨していく一つのツールであり、メリットの方が多く、継承して欲しい文化であると認識しております。少なくとも各地区会活動や支部学会には多くの皆様がこれからも参加していただけるよう願っております。会員の皆様におかれましては、日々の検査業務に明け暮れる毎日と思います。だからこそ、自らのスキルアップを最優先とすることに異論はありませんが、価値観の異なる多くの会員の方々と接し交流する機会を自ら閉ざすことの無いよう願っております。

最後に関信支部の益々の発展と会員の皆様のご多幸を祈念し、新年の挨拶といたします。

支部表彰を受賞して

NHO 埼玉病院
蓮尾 茂幸

この度は、第52回国臨協関信支部学会において支部表彰をいただきありがとうございます。推薦いただきました埼玉地区会ならびに関信支部役員の皆様に御礼申し上げます。

昭和63年3月に国立東京第二病院（現東京医療センター）の賃金職員として採用され、平成3年2月に習志野病院（現済生会習志野病院）で常勤職員採用となって、早いもので33年が経過し定年を迎えます。

私は、国臨協本部、国臨協技師長協議会の経歴はありますが、支部役員の経歴はありません。唯一、超音波検査のルーチンアドバイザーとして携わらせていただきました。

地区会活動としては、千葉、東京、神奈川、埼玉地区会に参加させていただきました。神奈川、埼玉地区会では会長を務めさせていただきました。埼玉では久々に参加型の親睦会を開催できたことがとても印象に残っております。

ここ3年程で、関信管内のほとんどの技師長が入れ替わりました。若返った「新生国臨協関信支部」として活発に活動されることを期待しております。

最後になりますが、関信支部の益々の発展と会員皆様のご活躍を祈念してお礼の言葉とさせていただきます。

NHO 高崎総合医療センター
瀬下 明子

この度、第52回国臨協関信支部学会におきまして支部表彰を賜りました。推薦していただいた群馬地区会ならびに関信支部役員の皆様にお礼申し上げます。

国立療養所東長野病院に賃金職員として勤め始めた当時は女性が働き続ける環境は整っておらず職を辞した先輩方もいて、私自身定年を迎えるまで仕事をするとは想像すらしませんでした。ですが縁あってその後6施設で勤務し、在籍した茨城、東京、長野、神奈川、栃木、群馬地区会の皆様には大変お世話になりました。施設の規模や特色も様々で、検査科の雰囲気も多彩でした。転勤当初は戸惑っていた職場も周りの皆様に助けられ、土地にも馴染み、そこがだんだん自分の居場所となった事は面白い経験でした。

東京にいた時期に1年間、関信支部理事として広報と会計を担当しました。組織の仕組みや多くの方々が見えない部分で会務を担っていた事もわかり学びとなりました。更にその年は第68回国立病院総合医学会の担当支部だったため諸会議の運営に携わり、臨床検査部門合同懇親会では寸劇まで披露するなど密度の濃い経験をさせていただきました。また知り合う人も増えて皆が頑張っている姿は励みとなり、何事も形とするには人の手や想いが必要だと感じました。今後の関信支部も皆様の手でより良い形に進化していくと良いなと思っています。経験は宝です。振り返るとお世話になったばかりで自分は果たして人の役に立ってきたのだろうか…と思ってしまいます。私に関わってくださった皆様には本当に感謝しかありません。ありがとうございました。

最後に皆様の健康とご多幸と益々のご活躍を祈念しお礼の言葉とさせていただきます。

NHO 千葉医療センター
山﨑 正明

この度、第52回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂戴し、身に余る光栄です。ご推薦いただいた千葉地区会並びに関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

昭和61年の春、地元の国立犀潟療養所（現 さいがた医療センター）に賃金職員として採用され、技師人生がスタートしました。平成元年、今は無き「国立佐倉病院」に定員採用で異動。平成16年3月の閉院までの15年間、主に腎臓移植に関する検査（HLA タイピング等）に従事しました。佐倉は当時、全国の腎臓移植の基幹施設であり、一年365日24時間体制で検査待機しているような状況でした。閉院の際に検査台帳を調べたところ、献腎・生体腎を合わせて在職中に約200件の移植に関わったことが分かりました。20～30歳代で体力があった時だったからこそ、頑張れたのだと思います。

そんな中、同僚と競い合って学会発表も積極的に行いました。支部学会の他には、国病学会、日本移植学会、日本組織適合性学会、日本医学検査学会、千葉県臨床検査学会等です。いつも準備が大変でしたが、終わった後の解放感の中での飲み会や観光など、楽しい思い出は一生忘れないでしょう。

支部学会時のスピーチで若手諸君に「多くの学会発表をして」とお願いしました。毎日のルーチンワークだけでは刺激が無いし、それだけなら臨床の場にいる意味が無いと個人的には思います。今のうちに多くの経験を積んでいただき、それをまた後輩にぜひ引き継いで歴史を繋いでください。

最後になりましたが、国臨協関信支部の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。長い間、大変お世話になり、ありがとうございました。

アフターコロナ通信

(1)

post-corona

埼玉地区会交流会に参加して

NHO 埼玉病院　小川 輝子

令和６年５月 18 日、快晴の下、埼玉地区会主催の交流会が池袋駅から徒歩５分の楽園タウン屋上で開催されました。コロナ禍の影響で実に４年ぶりの交流会開催でした。交流会はBBQ大会で、当日は28名の会員が揃いました。

普段、職場で顔を合わせる職員もマスクをしていない姿を見ることがなく、誰だか分からない職員もいて新鮮でした。いかに、マスク生活になじんでしまったことかと感じました。

BBQでは、焼き物をマニュアル通りに進めるテーブル、独自のやり方で進めるテーブルと様々あり、愉快な時間を過ごしました。飲み物は自分で注ぐスタイルでしたが、居酒屋でバイト経験のある職員がいてビールを美しく注いでくれ、職員の新たな一面を発見したりもしました。

中盤から、ビンゴ大会が始まり、職場を超えて盛り上がりました。かくいう、私も１等賞でビンゴを達成し副賞をいただきました。副賞のひとつが、この投稿です。ありがたく投稿させていただきます。ビンゴの景品は参加者全員分が用意されており、楽しい会にしようとする役員の皆様の意気込みを感じました。楽しい時間はアッという間に過ぎ、交流会はお開きとなりました。

コロナ禍前は、当たり前だった交流会も４年ぶりとなるとさらに貴重な時間に感じました。普段、職場では見ることが出来ない職員の様子を知ることが出来たこと、また他施設の方とも情報交換し親睦を深められ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

最後になりましたが、交流会を企画、準備していただき、楽しい時間を提供してくださった埼玉地区会役員の皆様に感謝申し上げます。

長野地区会定期総会・研修会を終えて

NHO まつもと医療センター　原田 崇浩

令和６年６月 22日(土)にまつもと医療センター第一会議室において、第 39 回国臨協関信支部長野地区会定期総会および研修会が前年同様に集合式で開催されました。今回の長野地区会総会は、新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行後、２回目の集合開催となりました。来賓として関東信越グループより熊谷臨床検査専門職、関信支部より齋藤副支部長と中谷理事のご臨席を賜りました。研修会ではアボットジャパン合同会社の梶優展先生より「スタッフの士気と生産性の高い職場とは～心理的安全性を知る～」と題してご講演をいただきました。今の時代に即した講演内容でとても充実しており、今回の内容を日々の業務に取り入れ活かしていきたいと思いました。続いて、熊谷臨床検査専門職から「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」と題して、国立病院機構の概要や各種認定試験の取得状況、主任技師任用試験など多岐にわたる内容をご講演いただきました。スキルアップのための様々な機会が用意されているお話を拝聴し、各種研修会などに積極的に出席し、さらなる自己研鑽に努めていきたいと考えました。

定期総会では柳澤会長の挨拶に始まり、令和５年度長野地区会活動の内容が報告されました。その後、議案審議、新役員の選出が行われ、会員の承認をもって無事に終了しました。2020 年に新型コロナウイルスが発生後、まつもと医療センターへ異動となった私にとっては初めての集合式の地区会でしたが、今後も地区会の活動を通して会員の方々との親睦を深めていきたいと思いました。

最後になりますが、お忙しい中ご講演いただいた熊谷専門職、梶先生、および齋藤副支部長、そして本会の開催に携わっていただきました長野地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。

東京・山梨地区会研修会に参加して

国立国際医療研究センター病院　髙橋 望美

令和６年７月 13 日に東京医療センターにおいて、令和５年度 第１回東京・山梨地区会研修会が開催されました。

はじめに関東信越グループ熊谷豊臨床検査専門職より「臨床検査専門職伝達事項」のお話があり、続いてヒューマンハピネス株式会社代表／産業医・労働衛生コンサルタント 上谷実礼先生より「職場におけるメンタルヘルス」というテーマでご講演をいただきました。上谷先生は、「勇気づけ医療コミュニケーション」では、「自分には居場所がある」「周りの人は仲間だ」「自分には能力がある」ことを伝えながら対話を重ね、幸福感を得られるように向き合うことが、自分にも相手にも勇気を与えられることに繋がるとお話されました。

私は生理検査室に所属しています。今年度は新採用者を含め６名の増員があり、25 名で業務をしています。私はスタッフとのコミュニケーションの取り方に難しさを感じ、スタッフへの伝え方、やる気の引き出し方、雰囲気の良い検査室のつくり方に頭を悩ませているところでした。講演を聞いて、私はスタッフの短所を含めた個性をそのまま受け入れていないことに気づきました。常に、患者の立場を第一として行動することができるなら、それぞれに合ったやり方があり、アプローチは各々に任せることも大事であると考えました。それを踏まえて、自分の意見を何でも発言でき、お互いを尊重し、切磋琢磨できる検査室、すなわち、心理的安全性の高い職場にしていきたいと思います。

今回の講演は、とても有意義な内容で、社会人として成長する機会をいただいたと感じています。

最後になりましたが、ご講演くださった上谷実礼先生、司会の東京医療センター 臨床検査管理医 牛窪真理先生、並びに企画・開催してくださいました東京・山梨地区会北沢敏男会長はじめ、役員の方々に感謝申し上げます。

アフターコロナ通信 (2)

post-corona

神奈川地区会レクリエーションに参加して

NHO 横浜医療センター　大森 衣里子

会員の皆様、こんにちは。

コロナ禍の影響で５年間開催を見合わせていた神奈川地区会のレクリエーション活動が久しぶりに今年度開催の運びとなり無事に終了いたしました。会員の皆様の多数のご参加とご協力に心より感謝申し上げます。

今回のレクリエーションは、６月29日(土)に東京ドームで開催された巨人対広島の野球観戦でした。個人的には東京ドームでの野球観戦は初めてだったのでとても楽しみにしていましたし、いい経験ができたと思います。試合当日は、選手たちの白熱したプレーに会場は大いに盛り上がりました。特に、ホームランやファインプレーが出るたびに歓声が上がり、観客席全体が一体となって応援をしました。今回、普段の業務から離れて皆で一緒にスポーツを楽しむことでリフレッシュすると同時に職員同士の親睦も深まったと思います。

また、他施設の職員の方々とも交流する良い機会となり、異なる視点や情報を共有することができました。この経験を今後の業務に生かしていきたいと考えています。

今回の野球観戦を通じて、職員同士のコミュニケーションがより活発になることを期待しています。さらに他施設の方々との交流が新たな刺激となり、今後の業務に対するモチベーションの向上に繋がればと思います。

久しぶりのレクリエーション開催にも関わらず、多くの会員の方にご参加いただき成功に終えることができましたのはひとえに皆様のおかげです。改めまして、皆様のご協力に感謝申し上げます。

第 52 回国臨協関信支部学会に参加して

国立国際医療研究センター国府台病院　伊東 玲奈

令和６年９月７日に国立がん研究センター中央病院で開催された第 52 回国臨協関信支部学会に参加しました。コロナ禍以降５年ぶりの集合型開催でしたが、天候にも恵まれ大盛況の中終了いたしました。

私は生理機能検査を担当しているため、生理検査の発表を拝聴しました。「PRIDE ～必要とされる検査技師へ～」というテーマにふさわしく、医師・看護師、または患者にとって有意義な新しい取り組みについての発表や、異常所見を発見した際に速やかに医師に報告することで診療に貢献できた内容の発表が多かったように感じました。

多忙な業務の中では、新しい取り組みを検討することを後回しにしがちですが、患者や病院スタッフのためにも積極的に取り入れていくことで、検査技師のさらなる活躍の場を広げることができることを実感しました。また、この学会に参加して、異常値報告をできるような検査技師になるための重要なポイントを再認識させられました。そのポイントは、常に知識の Update が必要であるということでした。日々の症例を丁寧にレビューすること、学会や勉強会・研修会等にも積極的に参加し常に最新の情報を取り入れて、他職種から信頼・必要とされる検査技師になれるよう日夜努力し続けようと思いました。

今回は集合型開催であったため、学会に参加しているという臨場感や緊張感があり、発表に集中し内容について深く考えることができました。さらに、以前一緒に働いていた方々に近況報告し、元気な姿を見せることができたことは嬉しいと同時に前向きな気持ちになることができました。他施設の方々とコミュニケーションをとれることも集合型開催の魅力であると感じました。人脈こそ将来の自分に必要不可欠ではないかと感じました。

最後になりましたが、学会の開催にご尽力くださいました国臨協関信支部役員の皆様、ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

第 52 回国臨協関信支部学会・学会企画分科会に参加して

NHO 村山医療センター　篠﨑 翔平

2024 年９月７日（土）、国立がん研究センター中央病院において、第 52 回国臨協関信支部学会・学会企画分科会が開催されました。新型コロナの影響により Web 開催（リアルタイム配信）となっていましたが、５年ぶりに集合型での開催ということもあり、多くの参加者で賑わっていました。

一般演題は 31 演題と昨年より多くの登録があり、会場を第１会場（大会議室）、第２会場（セミナールーム B）の２会場に分けて行われました。私が聴講した演題では活発な質疑応答がなされ多くのことを学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

学会企画では、特別講演としてロシュ・ダイアグノスティックス株式会社の近藤雅紀先生による「ウイルス性肝炎診療の振り返りと課題を再考する」をご講演いただきました。また、分科会ではテーマを「新入職者から若手技師を対象とした検体検査業務に役立つ基礎知識」と題し、国立がん研究センター中央病院の有賀祐先生による「血算の実践的な見方・考え方」、松林秀弥先生による「精度管理の基本的な見方・考え方」をご講演いただきました。

私は分科会の講演を聴講し、日々の業務に関する大切な知識や着目点などを実際にあった事例を踏まえ解説していただき、検査値やヒストグラムの見方、血小板数の再検目安、精度管理の見方や重要性などをより深く理解することができました。講演を通して学んだことを今後の検査業務に活かしていきたいと考えております。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演をいただきました近藤先生、有賀先生、松林先生ならびに第 52 回国臨協関信支部学会・学会企画分科会の企画・開催にご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様に心より御礼申し上げます。

学術のススメ

内視鏡診療における臨床検査技師による業務介入の取り組み

国立国際医療研究センター病院
内視鏡センター
佐藤 真己

【背景・目的 】

昨今、内視鏡診療の発展は著しい。保険点数の改定・新設もあり、収益性が高く病院経営にも大きく関わるようになっている。それに伴い、関わる職種の多様化、専門性の向上による、高度な知識・技術が求められるようになった。当院の状況を報告すると 2022 年度では、常勤医師 16 名（指導医 4 名、専門医 5 名、後期研修医 / 専攻医 7 名）、看護師は外来所属の 9 名が他外来部門と兼務し、消化器内視鏡診療に従事していた。看護師のうち、2 名が後述する消化器内視鏡技師資格を取得しているが、看護業務が多く、専任することは困難であった。今回、タスク・シフト / シェアをきっかけに臨床検査技師が業務介入することとなり、専従消化器内視鏡技師として配置された。2022 年 4 月からスタートし、増員を経て現在は２名で行っている。今後、増員を予定しており、３名体制になる見込みである。臨床検査技師による業務介入の取り組みについて報告する。

【消化器内視鏡技師認定制度】

日本消化器内視鏡学会の定める認定資格である。専門的な介助業務・機器管理業務などを行うことを目的としており、看護師・臨床検査技師・臨床工学技士などが受験可能である。現在の会員数は約 25,000 名、臨床検査技師が約 1,200 名である。40 年以上の歴史があり、発足当初から臨床検査技師が参入、現会長はじめ幹部の多くが臨床検査技師である。

【取り組み】

先ず、業務範囲の検討を医師・看護師と行った。日本消化器内視鏡技師会の定める業務指針を参考に、①検査・治療の介助、②内視鏡機器・システムの管理、③洗浄履歴管理として、医師・看護師が担っていた業務の移管を行った。①従来、検査介助は看護師、治療介助は医師であり、優先度を決めて介入することにした。②内視鏡機器・システムの管理者として保守管理を行い、機器の故障やトラブル、システムの不具合など即時に対応することとした。また、機器管理台帳を作成し一元管理を実施した。③洗浄を担う外部業者との連携、洗浄履歴管理業務による問題の早期発見に努めることとした。

【結果】

①業務効率化による患者待ち時間の減少→上部内視鏡検査の待ち時間を比較した結果、介入前 9.8 分 / 件から、介入後は 6.8 分 / 件と減少した。②最終検査終了時間の短縮→介入前は平均 16 時 05 分に対し、介入後は平均 15 時 50 分と約 15 分短縮した。③修理実績の減少→ 2021 年度の修理実績は約 924 万円。2022 年度は約 457 万円に半減した。

【まとめ】

内視鏡診療に臨床検査技師が介入することの利点は、検体処理などの専門性を生かし、診療の質向上・携わるスタッフの負担軽減に貢献できることである。しかし、担うべき業務内容は多岐にわたるため、検体処理や生検による組織採取のみでは不十分であり、消化器内視鏡技師の業務指針を参考にすべきである。今後、タスク・シフト / シェアを足掛かりに、さらなる臨床検査技師による内視鏡診療の業務介入が求められる。そのためには実務を経験できる環境の構築が必要であり、日臨技での研修会、すでに臨床検査技師が業務介入している施設への見学や、同じ組織内の出向などが必要である。現状、内視鏡診療は未だに医師・看護師のみで行われている施設が多い。そこに介入するには、医師・看護師から指導を受ける必要がある。今後、臨床検査技師が多方面で活躍するためにも、多職種との連携が最も重要であろう。

会員のひろば

NHO 宇都宮病院
外﨑 菜智

アナログの魅力

今まで生きてきて、自分の趣味ってなんだろう？と疑問に思い続け、よくあるプロフィールにはその場でなんとなく思いついたものを書いてきました。でも、大人になってやっと魅力に気づき、今では趣味だと言えるようになったことがあります。

いきなり私の家族についての話になりますが、非常にアクティブで体力勝負な両親の元で私は育ちました。夏になれば登山、冬はスキー。明らかに海より山派でした。また、両親の趣味で乗用車はずっと三菱のランサーエボリューション。駅までの送迎やスーパーへの買い物などの日常生活から、旅行で遠出するまで、全てこのスポーツカーでした。家族で飛行機に乗ったことは一度もありません。他の家庭と比べるとちょっと変わっていたな、と今は思います。でもそんな家庭で育ったからこそ、今の私の趣味へと繋がっていったのです。

今まで小さなころから登山をしてきて、百名山と言われるような山々にも知らないうちに登ってきました。でも私の登山への感じ方が変わったのは、高校１年生のころに登った燧ケ岳でした。暑いし、息は上がるし、足は重くなるし…。

しかし、登頂した瞬間に衝撃を受けました。目の前に広がる青い空と眼下に広がる尾瀬沼や広大な尾瀬ヶ原、山頂で見た絶景は今でも忘れられません。疲れが吹き飛ぶという感覚を初めて味わいました。その時、わざわざお金や時間をかけて登る人たちのことを理解できたような気がしました。さらに、２年前に登った燕岳でもまた山に魅了されました。11 月の頭にもなれば、北アルプスの山々は雪をまとい始めます。山小屋で一晩過ごし、朝起きて外に出てみると、これまた絶景。雲海が広がり、空の遠くから顔を出した太陽は雪に縁どられた山々を綺麗に照らし、だんだんと漆黒の空も目覚め始めます。こんな絶景、想像しただけでも見てみたい気持ちに駆られませんか？危険と隣り合わせのこともあったり、自然の洗礼をうけたり、楽しいばかりではありませんが、スマホの画面越しでは味わえないあの景色と気持ちを何度も味わいたいのです。

知らないうちに身近だったのは山だけではありません。この家に生まれた以上、免許は MT だ！と言われ、大学４年生の春に車の免許を取りに行ったとき、運転中教官からとても驚かれました。後部座席から見ていた親のシフトチェンジのタイミング、エンジンの音の変わり方、それはもう勝手に体に染み込んでいました。もしかして練習してきた？と聞かれるほどでした。その時、あれ？実はすごい感覚が養われていた？と気づき、そこから私の MT 車人生がスタートしました。女性で MT 車に乗るってどうなの？なんて偏見は残念ながら存在します。さらに日本の約 98％が AT 車である中、なぜ敢えて MT 車に乗るのか。楽しいし面白いからです。最初は、すぐエンストするから嫌だな、坂道発進自信ないな、という初心者なら誰もが通る道を通ってきました。しかし、貯金をはたいて自分の車を手に入れたことを機にどんどん魅力に気づいていきました。自分と車が一体化したような感覚、手と足の操作が車の動きに瞬時に現れる感覚、言葉では表現が難しいですが、デジタルが発達した昨今にアナログを操る楽しさは他では味わえません。気持ちとは裏腹に、技術はまだまだ追いついてこないので、栃木で日々練習中です！

この時代に生きる私にとって、責任やプレッシャーと戦う毎日を忘れさせてくれる、この先も大切にしたい趣味たちです。

令和７年度国臨協関信支部　役員公募のお知らせ

役員推薦委員長／山川博史　役員推薦委員／武山茂　役員推薦委員／新谷和之

令和７年度４月の国臨協関信支部定期総会において役員の改定を行います。つきましては、国臨協関信支部役員推薦規定第３条により役員を公募いたします。公募用紙は関信支部 HP の『関信支部とは／関信支部規約類』より「関信支部役員応募・推薦届出用紙」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、以下の提出先に郵送またはメールにて書類を提出してください。なお、自薦であっても会員１名の推薦人（役職は問わない）を必要としていますことを申し添えます。

- 締め切り：令和７年２月 28 日（金）
- 提 出 先：〒 300-8585 茨城県土浦市下高津 2-7-14　NHO霞ヶ浦医療センター研究検査科　齋藤ひとみ
- E-mail：saito.hitomi.ft@mail.hosp.go.jp

集まれ 若手技師

How about your work

国立国際医療研究センター病院
知念 芹菜

国立国際医療研究センター病院に勤務している知念芹菜と申します。大学卒業時、臨床検査技師の国家資格を取得できませんでしたが、臨床検査技師を目指すことを諦めず、国立がん研究センター病院の研究所で研究補助として働きながら国家資格を取得しました。技師歴としては他の若手技師より遅れていますが、臨床検査技師としての貴重な経験を積ませていただきました。

現施設入職後、まず外来採血室に配属され、約1年半にわたって担当しました。最初は何もできず、精神的にも辛い日々が続きましたが、採血室の上司や先輩方に支えられ、徐々に上達し、現在では緊張せずに患者さんの前に立つことができるようになりました。できることを少しずつ増やしていくことで成長を実感し、自信も深まりました。

さらに自信を深めるために、知識向上を目指し、認定資格の取得にも力を入れました。昨年はPOCT測定認定士の資格を取得し、今年は遺伝子化学分析認定士に挑戦しました。勉強方法としては、教科書を繰り返し読み、過去問を解くことに力を入れました。特に病院内での勉強が最も効果的だったため、試験前の数か月間は昼休みや夜勤中、仕事終わりに時間を見つけて勉強しました。私にとって非常に難しい試験でしたが、遺伝子の勉強は苦にならず、充実した時間を過ごすことができました。その結果、無事に資格を取得することができました。

話は変わりますが、今年から検体検査室に配属され、時間外検査業務も一人で担当するようになりました。そんな折、遺伝子検査も担当する機会を得ました。現在は生化学免疫学検査を担当しながら、週に1回遺伝子検査のトレーニングを受けています。初めは、経験のあったPCRから始め、その後、検体の受付、DNA抽出、DNAの濃度測定、電気泳動、リアルタイムPCR、サンガー法、NGS（次世代シークエンサー）の操作も一通り学びました。これらの検査は1日で完結するものではなく、検査の途中で失敗すると最初からやり直しが必要になり、時間がかかることがあります。最近の失敗では、サンガー法で検出できなかったことがありました。原因を追及した結果、最初のPCRで増幅がうまくいっていなかったことがわかり、その工程から再度行いました。遺伝子検査は細かい作業が多く、入れ間違いやコンタミネーションのリスクがあるため、細心の注意を払って作業を進める必要があります。

現在はトレーニング中で実際の検体を扱う機会は少ないものの、今後は生活習慣が影響する家族性高コレステロール血症など、遺伝的要素が強い検査を担当する予定です。また、当院では褐色細胞腫などの希少疾患の遺伝子検査や全エクソン解析、心疾患に特化したパネルNGSも行っています。

検体検査業務においては、ルーチン業務に加えて、文書管理や機器メンテナンスの研修にも参加させていただき、検査室の一員として貢献できることにやりがいを感じています。また、遺伝子検査業務は病気の早期発見や発症リスクの予測、遺伝的な体質の傾向の評価を行い、臨床検査技師としては最先端の技術に携われることに大きな意義を感じています。今後は後輩への指導も増えていくと思うので、初心を忘れず、業務に取り組んでいきたいと考えています。

この1年は新しい仕事が増え、非常に大変でしたが、まだ至らない点も多いため、業務を効率よくこなせるよう、勉強会や研修に参加し、認定資格取得に向けて勉強を続けながら、自分の知識を深め、一人前の臨床検査技師を目指していきたいと思います。

人事異動（令和6年7月2日～令和6年11月1日付）

辞令交付日	異動内容	氏　名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
7月31日	退職	山中　玲奈			NHO 甲府病院	技師
7月31日	退職	猪野　和矢			NHO 千葉医療センター	技師
7月31日	退職	江畑　利奈			国立国際医療研究センター病院	技師
8月 1日	採用	中村　友香	国立国際医療研究センター病院	技師		
8月13日	採用	畠山　久美	国立精神・神経医療研究センター病院	期間職員		
8月31日	退職	下井　佑太			国立国際医療研究センター国府台病院	技師
9月 1日	採用	中村　真弓	NHO 東京病院	非常勤		
9月17日	採用	奥山　恵里	NHO 相模原病院	非常勤		
9月30日	退職	榮田　愛			NHO 水戸医療センター	技師

辞令交付日	異動内容	氏　名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
9月30日	退職	望月　麻由			NHO 西埼玉中央病院	技師
9月30日	退職	山田　みず紀			NHO 東京医療センター	技師
9月30日	退職	中野　わかな			NHO 村山医療センター	技師
10月 1日	採用	石堂　桂花	NHO 災害医療センター	非常勤		
10月31日	退職	横江　敏勝			NHO 東京病院	非常勤
10月31日	退職	小笠原　武			国立がん研究センター中央病院	非常勤
11月 1日	採用	大谷　由惟	NHO 東京医療センター	非常勤		
11月 1日	採用	髙野　雄斗	NHO 西新潟中央病院	期間職員		

研修会レポート

医療職（二）・福祉職キャリアアップ研修に参加して

NHO 西新潟中央病院
加藤 梨紗

この度、令和６年度医療職（二）・福祉職キャリアアップ研修に参加し、主任としての役割と資質について深く考察する機会を得ました。特に、部下の育成という観点から活発な議論が展開され、私自身、多くの気づきを得ることができました。

グループディスカッションでは、部下の長所短所を見極める上で、コミュニケーションの重要性が強調されました。部下の失敗の原因を共に探り、改善策を模索するプロセスにおいて、否定的な言葉ではなく、共感と理解に基づいたコミュニケーションが不可欠であるとの結論に至りました。この考え方は、部下の成長を促す上で非常に重要であり、日々の指導で活かしていきたいと考えています。また、理想の上司像についても議論が深まりました。自己研鑽を怠らず、常に新しい知識やスキルを習得することが求められると同時に、部下の意見に耳を傾け、柔軟な姿勢で指導にあたることの重要性が指摘されました。特に、教本を用いた共同学習は、部下との共通認識を形成し、より効果的な教育を実現するための有効な手段であると感じました。

今回の研修を通じて、主任として求められる資質は、専門知識だけでなく、人間関係構築能力やコミュニケーション能力も不可欠であることを改めて認識しました。特に、部下との信頼関係を築き、共に成長していくことが、組織全体の活性化につながると確信しています。

現時点ではまだ主任の立場ではありませんが、今回の研修で得た学びを活かし、部下の育成に積極的に取り組んでいきたいと考えています。具体的には、部下との定期的な面談を実施し、個々の成長を支援するとともに、チーム全体の目標達成に向けて、共通の目標を設定し、協力体制を構築していく予定です。

今回の研修は、私にとって貴重な経験となりました。今後は、主任としての役割を自覚し、組織の一員として貢献できるよう、更なる成長を目指していきたいと思います。

第１回国臨協関信支部主催研修会に参加して

NHO 西埼玉中央病院
佐藤 慶和

今回の研修会は２部構成で前半は益田泰蔵先生による医師の働き方改革からタスク・シフト/シェアそして2040年問題をご講演頂きました。始めにタスク･シフト/シェアの経緯からお話し頂き、言葉としては知っていたものの、詳しい内容やその成り立ちまでは理解していなかったことに気付かされました。現行制度下で可能な業務を14項目紹介いただきましたが、カテーテルなどの検査装置の操作から検体採取、検査に関わる薬剤の投与まで多岐にわたる内容でした。これらはチーム医療の検査技師として検査知識はもちろんのこと、検査機器工学や薬理学の知識も幅広く身につける必要があると実感しました。今後、積極的に知識習得に取り組んでいきます。

最後に2040年問題についてお話し頂き、少子高齢社会とそのときの臨床検査技師のあり方について深く考えさせられる内容でした。検査室の人数が減少することは予想されるので、今のうちから１つの検査だけでなく幅広い検査に対応することができる臨床検査技師を目指していくべきだと感じました。

後半は佐藤真己先生と奥山康博先生による内視鏡診療における臨床検査技師による業務介入の取り組みをご講演頂きました。私も病理検査に携わっているので、内視鏡技師の業務内容や有用性は、とても興味深い内容でした。

今回の研修会で今後の臨床検査技師について考えさせられることが多くあったので、私も自己研鑽を怠らず、精進していきます。

最後になりましたが、今回ご多忙の中ご講演いただきました、益田泰蔵先生、佐藤真己先生ならびに奥山康博先生に感謝を申し上げますと共に研修会を企画、準備していただきました関信支部役員の皆様にお礼申し上げます。

臨床検査の精度及び品質確保推進研修に参加して

NHO 千葉東病院
横井 貴之

令和６年９月17日に「令和６年度　臨床検査の制度および品質確保推進研修会」が開催され、国立病院機構、ナショナルセンターに従事している17名の臨床検査技師が参加しました。

午前中はアボットジャパン合同会社の澁谷康夫先生に「各分野における精度管理の現状」の講義をしていただきました。精度管理についてISO15189で求められること・内部精度管理の構築・目標値、許容範囲の設定・測定頻度・機器の管理などの講義を受け、自分の中で曖昧になっていたところが勉強になり、精度管理の大切さを再認識しました。

午後は「より良い精度管理を求めて」をテーマに担当分野ごと４グループ（生理、検体、微生物、輸血）に分かれ、ブレインストーミングを用いたグループディスカッションを行いました。２～６名のグループで自施設の良い取り組み、改善事項、困っていることをカテゴリー別に分け、改善策を加えて発表を行いました。

同じグループ内でも施設規模や病院特性が異なるため、様々な意見や積極的な質問が出ていました。ほとんどの方が初対面のため、始めは緊張した雰囲気でしたが、時間が経つにつれて白熱した討議となっていました。

数年ぶりに開催された集合型の研修会に参加できたことで、WEB研修では得られない刺激を受け、モチベーションが向上しました。今回の研修で学んだことを日々の業務に生かしていきたいと思います。

最後になりますが、ご多忙の中ご講義いただきました講師の方々、ならびに企画、開催してくださいました関東信越グループの皆様に心より感謝申し上げます。

主任臨床検査技師育成研修に参加して

NHO 災害医療センター
町田 和基

令和６年10月２日（水）、３日（木）の２日間にわたり、国立病院機構本部講堂において令和６年度主任臨床検査技師育成研修が開催されました。

臨床検査部門の継続的な組織運営と組織力の向上を図るため、次世代を担う主任臨床検査技師の意識改革を推進し育成することを目的とされ、主任臨床検査技師の経験が６年未満、主任技師等任用候補者選考に合格した臨床検査技師が参加しました。研修は講義、ディベート、グループワーク等の構成で２日間行われました。

１日目に行った「ディベート型研修」は初めての経験でした。限られた時間のなかで相手の意見を分析し論理的に考えることや、自身の意見を明確に伝達する必要があり、会議等で発言する場面も多くなる立場として非常に良い経験となりました。また、「ワーク・ライフ・バランス」のテーマで行ったグループワークでは、各施設の現状を交えながら意見を出し合い検討し、他施設の状況や取り組んでいる内容など大変参考になりました。

２日目には「コミュニケーション」「業務統計」等の講義、そして「キャリアパス」についてのグループワークを行いました。改訂キャリアパスは自己の問題点や、後輩技師の理解度・成長度をグラフ化し客観的に評価できるため、自身の成長や若手技師の育成のために有効なツールだと再認識しました。

今回の研修で学べたことは非常に多く、今後の業務に役立てていきたいと思いました。

最後に、本研修を企画・運営していただきました国立病院臨床検査技師長協議会及び関東信越グループの皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年度前期監査報告

令和6年10月26日（土）にNHO横浜医療センターにおいて令和６年度前期監査を実施いたしました。監査報告につきまして、関信支部HPに掲載しております。右記QRコードより閲覧可能です。関信支部HP新パスワードを入力の上ご確認ください。

関信支部HP

叙勲受章のお知らせ

令和６年秋の叙勲におきまして、元NHO東京医療センター臨床検査技師長・古家正道氏、元国立国際医療研究センター病院臨床検査技師長・山下幸作氏の二名が保健衛生功労者として瑞宝双光章を受章されました。

古家正道氏、山下幸作氏のこれまでのご功績を讃えるとともに、国臨協関信支部一同、心よりお祝い申し上げます。

覚えよう　身につけよう 検査技術！（血清）

NHO 千葉医療センター　中嶋 菜緒美

～今流行中の梅毒って？～

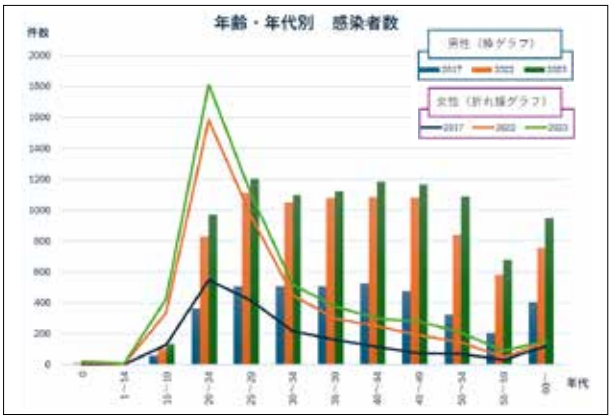
【梅毒とは】

梅毒トレポネーマ（*Troponema pallidum*）による感染症で、病名は症状としてみられることがある赤い発疹が楊梅（ヤマモモ）に似ていることに由来する。妊婦から経胎盤的に感染する先天性梅毒と、性感染症である後天性梅毒がある。後天性梅毒の臨床経過は 4 期に分類され、早期顕症梅毒（Ⅰ期、Ⅱ期）は、最も感染性が高い時期である。また、早期顕症梅毒（Ⅰ期、Ⅱ期）と感染後 1 年以内の早期潜伏梅毒を早期梅毒、感染後 1 年以降の後期潜伏梅毒と晩期梅毒を後期梅毒とよぶこともある。

【感染状況】

日本においては、1948 年から性病予防法に基づいた梅毒の全数報告が開始され、1960 年代に大規模な流行が見られた後、全体としては減少し 2000 年代には 500 ～ 900 例程度となっていた。しかし、2011 年頃から増加傾向となり、2019 ～ 2020 年に一旦減少したものの、2021 年から 2022 年にかけ急激に感染者が増加している。（グラフ 1 参照）
2017 年の 5770 件と比較し 2022 年は 12966 件と約 2.3 倍増加 !!
男女比は圧倒的に男性が多く、年齢別において女性は 20 ～ 25 歳代が圧倒的に多い。
男性は 20 歳代～ 60 歳代以上まで幅広く認められている。（グラフ 2 参照）

グラフ 1　※ 2024 年度は 10/2 時点での件数



グラフ 2

【検査】

梅毒の検査は主に 2 つの検査方法を組み合わせて行う。
①非トレポネーマ脂質抗体法：患者抗体がリン脂質のカルジオリピン（CL）と交差反応することを利用した簡便な検査法（STS 法とも呼ばれる）
「代表的な検査法」
・ガラス板法、RPR 法…カルジオリピンは非特異的な脂質のため、梅毒以外の疾患でも陽性となることがある（生物学的偽陽性）※1
②梅毒トレポネーマ抗原法：梅毒トレポネーマを抗原として用いた特異性の高い検査法
「代表的な検査法」
・TPHA…T. *pallidum* の菌体成分を付着させたヒツジ赤血球の凝集反応をみる
・FTA-ABS…T. *pallidum* の菌体成分と、蛍光標識した梅毒トレポネーマ特異的抗体を反応させて顕微鏡で観察する
・化学発光酵素免疫測定法（CLEIA）…多くの施設の免疫装置でスクリーニングとして用いられている抗原抗体反応を利用した測定方法

【結果の解釈】

梅毒の診断には主に 2 つの抗原法の結果から判断する

※1　生物学的偽陽性：梅毒感染がないにも関わらず脂質抗原に対する共通の抗体が産生され梅毒以外の SLE などの自己免疫疾患患者や妊娠や炎症性疾患などで陽性反応となることがある。

現在も大流行中の梅毒、検査法の原理や結果の解釈を理解したうえで検査へ取り組みましょう！

結果の解釈

CL抗原法	TP抗原法	活動性梅毒	陳旧性梅毒	非梅毒
（－）	（－）	○	○	◎
（＋）	（－）	○	○	まれ
（＋）	（＋）	◎	○	極めてまれ
（－）	（＋）	○	○	まれ

参考文献：
・国立感染症研究所（https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info-141107.html）
・厚生労働省 HP（https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html）
・性感染症　診断・治療ガイドライン 2020

編集後記

皆様、明けましておめでとうございます。この支部ニュース 236 号は例年よりも内容が盛り沢山となっています（少し詰め込みすぎました）。ぜひ目を通していただき、楽しんでいただけたら幸いです。
各施設の会員におかれましては原稿と写真をご提供いただき、感謝申し上げます。
今年も関信支部をどうぞよろしくお願いいたします。
（広報　齋藤）